Biz Cruncher 生成AI・IP ランドスケープ徹底監査

アーキテクチャの解剖、競合比較、そして実務導入プレイブック

DATE: 2026年10月
TARGET: 知財部門リーダー、R&Dマネージャー、経営企画
DOCUMENT TYPE: Strategic Evaluation & Slidedoc

Gemini Notebook

The Core Insight:
LLM単体ではなく「分析資産のオーケストレー・ター」



真のアーキテクチャ

生成AI（Claude/Nova）単体で特許を分析するのではない。既存の強力な分析機能（クラスタリング、マップ、Patent Score）をAIが操作・連携させる**「エージェント型」**の設計。



境界と限界

要約やレポート生成の自動化には極めて強力。しかし、**正式な「FTO判定」「侵害リスク判断」「数理的な最適化」**を行う機能は持たない。法的判断は人間の領域に残されている。

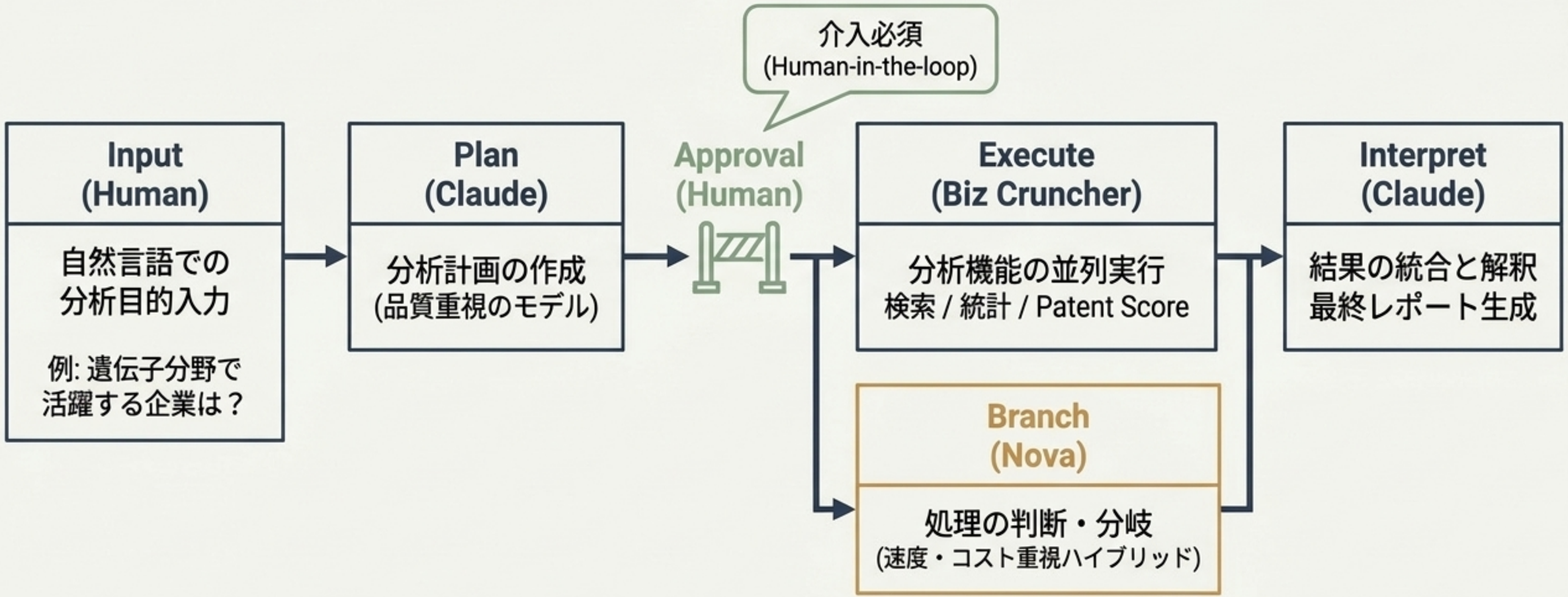


実務とROI

特許情報の**読解時間を約80%短縮**。しかし真の価値は「AI丸投げ」ではなく、**人間の目的定義**と法務レビューを挟む**「Human-in-the-loop」型のワークフロー**にある。

Gemini Notebook

Under the Hood:
ClaudeとNovaによるエージェント・ループ



Gemini Notebook

IP Landscape Foundation:
AIが操作する強力な分析エンジン



生成AIは、これら「日本企業の実務に最適化された強力な定量分析機能」を呼び出すための高度なインターフェースとして機能する。

Gemini Notebook

The Boundaries of AI: 意思決定の「材料」か、「結論」か

✓ AIが提供する「戦略材料」

- 特許の自動要約・解説・図解
- 自然言語からの自動分析＆レポート生成
- AI分析Q&A（Word出力対応）
- 発明創出のヒント生成
- M&A候補やホワイトスペース探索の「支援」

⚠ AIが踏み込まない「法的・経営的決定」

- 正式なFTO（侵害予防調査）の自動判定
- 法的侵害リスクの最終判断
- 特定の請求項を回避する詳細なデザインアラウンド設計
- 予算制約下での特許ポートフォリオの数理的最適化

Biz Cruncherの公式仕様は「材料の提供とレポート自動化」までを明示。法的結論へのAI利用は意図されていない。

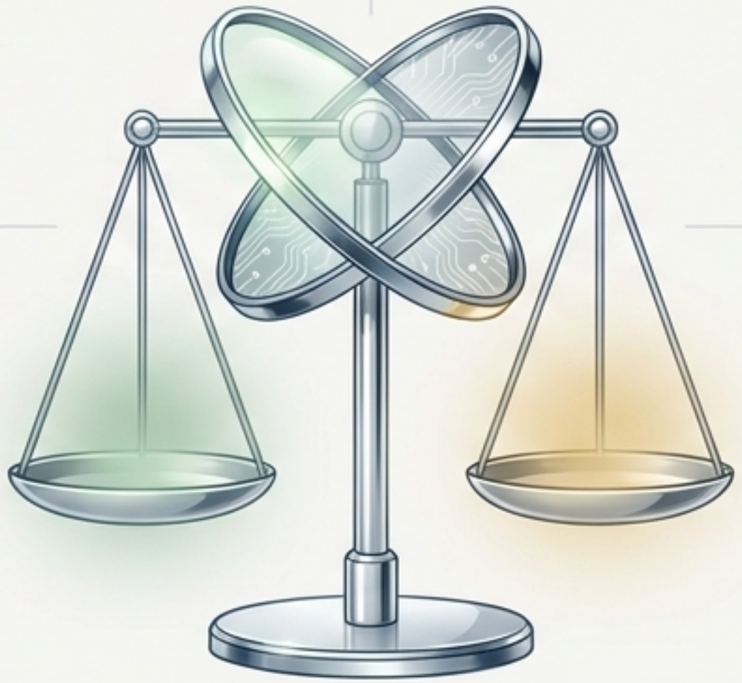
Gemini Notebook

Fundamental Philosophy:
「Patent Score」vs「Asset Index」

Biz Cruncher

指標: Patent Score (注目度)

- **設計思想:** 個別特許を起点とした活発な動きの感知。審査過程や第三者からのアクションを偏差値化。
- **最適用途:** 警戒監視、重要特許の迅速な抽出、特定技術における競合動向の把握。



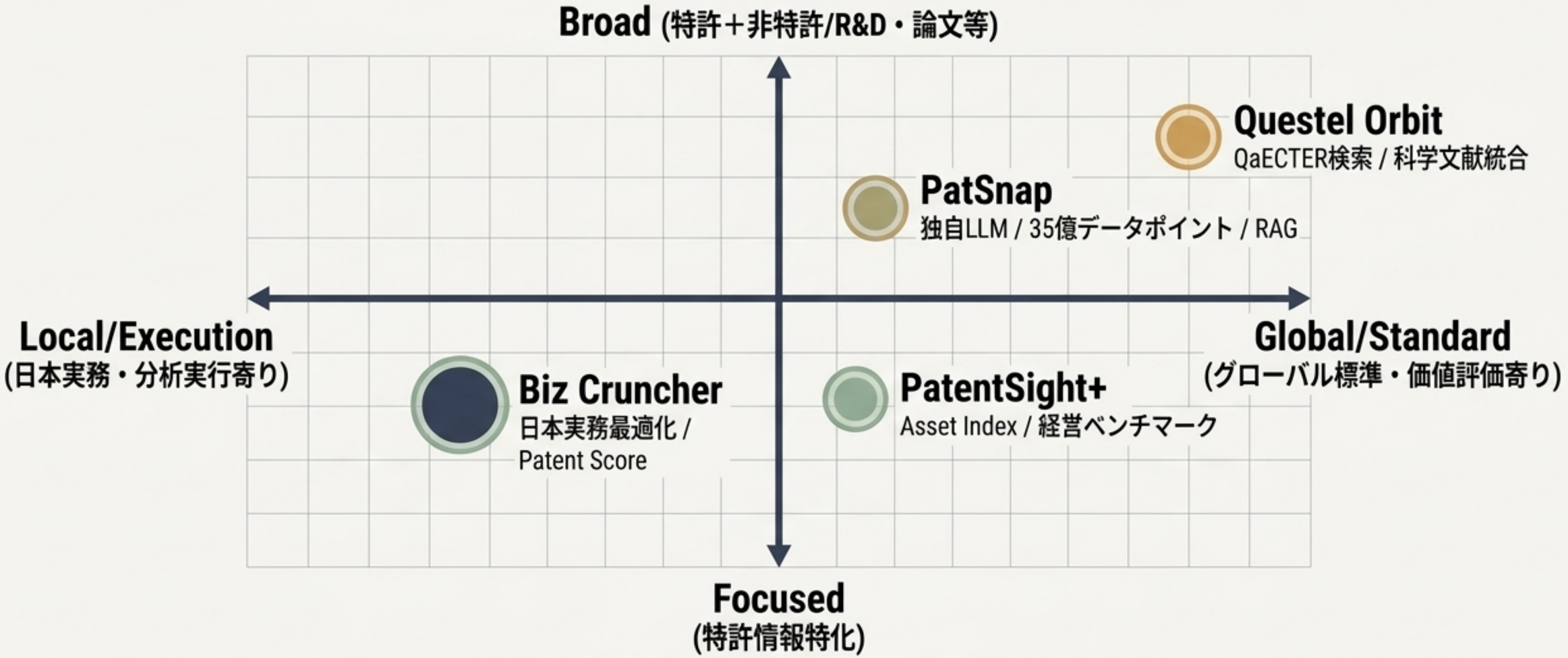
PatentSight+

指標: Patent Asset Index (ビジネス価値)

- **設計思想:** ファミリー単位でのグローバル市場価値。Technology Relevance × Market Coverageで算出。
- **最適用途:** グローバルなポートフォリオの客観比較、M&A時の資産価値算定、経営層向けベンチマーク。

Gemini Notebook

The IP AI Landscape:
最適なツールは目的で決まる



Gemini Notebook

Diagnostic Matrix:
生成AI × IPランドスケープ競合比較

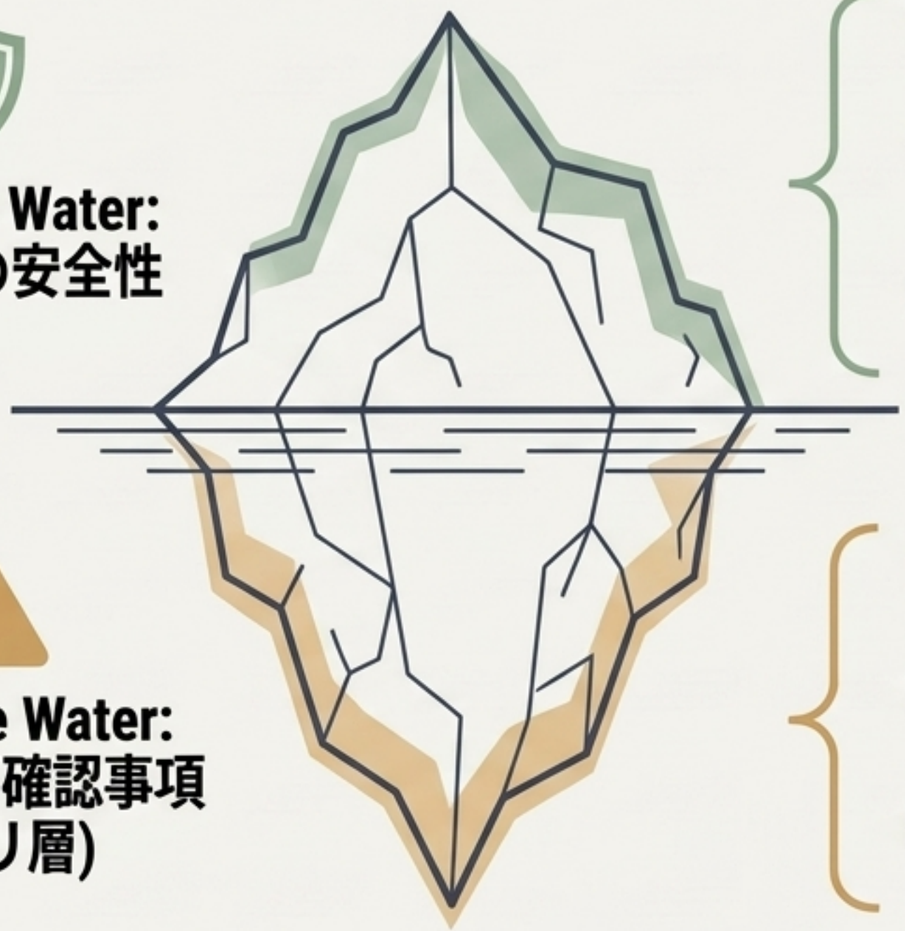
観点	Biz Cruncher	PatentSight+	PatSnap	Questel Orbit
AIアーキテクチャ	Claude+Nova エージェント	AI Insights/Protégé	独自LLM + RAG	Sophia + QaECTER
データの広さ	特許情報中心	特許情報中心	1.7億特許+2億非特許	1億特許+1.5億非特許
価値指標	Patent Score (注目度)	Asset Index (ビジネス価値)	多様なAI指標	ポートフォリオ品質指標
日本語親和性	● (最も高い/海外公報も)	◑ (利用可能だが思想は共通)	◑ (日本語サポートあり)	◑ (任意言語から英語検索)
モデル性能公開	○ (不明/非公開)	○ (詳細性能値なし)	◑ (独自LLM明示)	● (論文・ベンチマーク公開)

Insight: 非特許データ網羅性とAIモデル自体の透明性では海外勢に分があるが、日本実務との親和性と特許特化の使い勝手ではBiz Cruncherが優位。

Gemini Notebook

Security & Privacy Reality:
「AIが学習しない」＝「安全」ではない

Above the Water:
確認済みの安全性



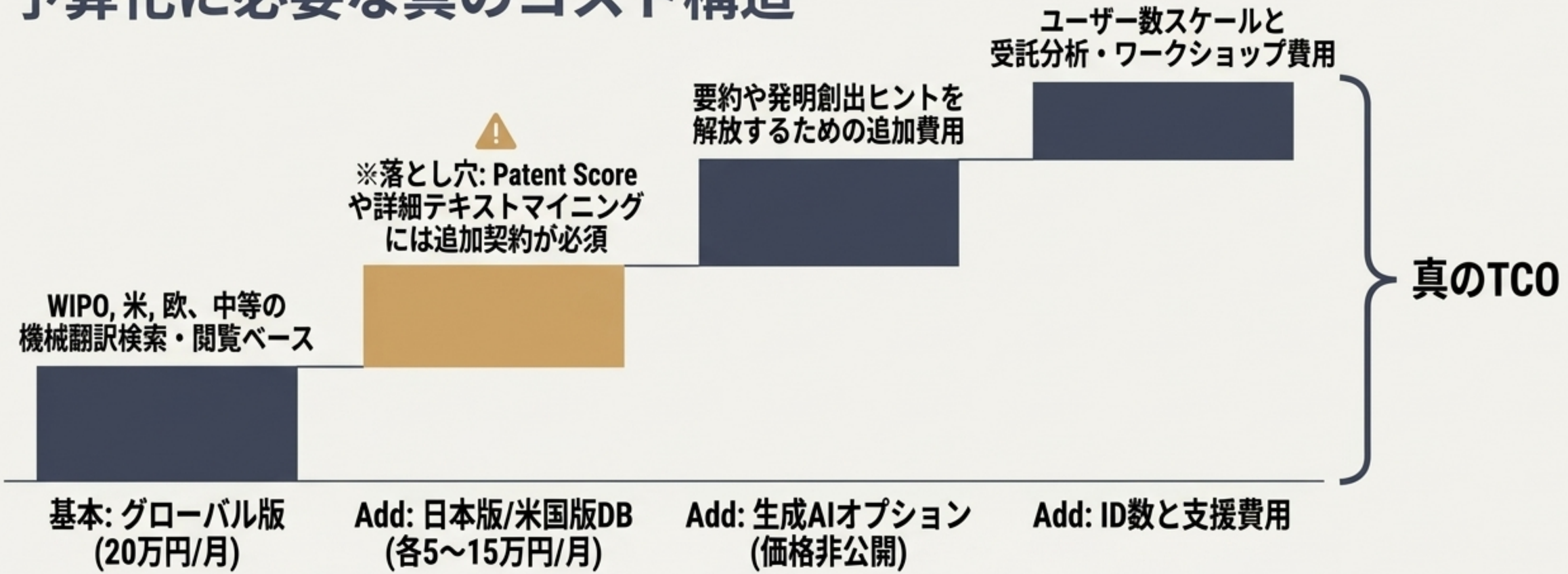
1. **Amazon Bedrock仕様:** 顧客の入出力をモデル学習に利用しない。
2. **ログ非保存:** Bedrock層では顧客設定がない限りログを保存しない。
3. **ISO認証:** 2026年8月にクラウドセキュリティ国際規格(ISO/IEC 27017)を取得。

Below the Water:
契約前の要確認事項
(アプリ層)

1. **アプリ層のログ保持:** Biz Cruncher自体の質問履歴・アップロード情報の保存期間は公開資料では不明。
2. **越境処理:** パフォーマンス向上のための推論越境処理の有無とデータレジデンシー要件。
3. **削除SLA:** 退会時の物理削除およびバックアップからの削除規定。

Gemini Notebook

The Hidden TCO:
予算化に必要な真のコスト構造



⚠「グローバル版20万円」で全てが完結するわけではない。
用途（日米の詳細分析＋AI）に合わせたフルスタックの見積もりによるPoCが必須。

Gemini Notebook

Recommended Workflow:
AIを「加速装置」として使うプロセス

1. 経営課題の定義

[Human]

「競合を調べたい」ではなく「3年以内に参入すべき領域は？」へ変換。母集団形成とノイズ除去。

2. 定量分析&AI計画

[Human + AI]

システム名寄せ。AIが分析計画を作成し、人間が必須で承認(Human-in-the-loop)。

3. レポート生成と解釈

[AI]

Claudeが定量結果を解釈し、事実に基づいたレポートを生成。結論から元特許へのトレースを維持。

4. 戦略仮説化と法務レビュー

[Human]

AIの出力を事実と仮説に分離。FTOや侵害リスクの最終判断は必ず法務・専門家が行う。

Gemini Notebook

How to run a PoC: 失敗しない検証のメトリクス



速度 (Speed)

Vendor Claim:
読解時間80%短縮 (AWS事例)

Your Metric:
ランドスケープ初稿作成までのランドスケープ初稿作成までのリードタイム短縮率と、一件当たりの読解時間。



精度 (Quality)

Vendor Claim:
(公開ベンチマークなし)

Your Metric:
AIレポートの事実誤りAIレポートの事実誤り(ハルシネーション)件数、検索母集団の適合率、専門家による修正工数。



セキュリティ (Security)

Vendor Claim:
Bedrock学習利用なし

Your Metric:
アプリ層のログ削除SLA、出願前機密情報を用いた場合の自社ポリシー適合性。

Gemini Notebook

Tool Selection Decision Tree: 自社に最適なツールはどれか？

Q1: 日本企業の知財が主体で、特許中心のIPランドスケープを日本語で迅速に構築したいか？

Yes → ⇨ **Biz Cruncher**
（高い日本語親和性、Patent Score、既存の強力な定量分析群）

No

Q2: 特許だけでなく、学術論文、市場データ、臨床試験など広範なデータソースを単一-AIで横断したいか？

Yes → ⇨ **PatSnap / Questel Orbit**
（広大なデータソース、独自LLM、高度なセマンティック検索）

No

Q3: グローバルなポートフォリオの「ビジネス価値」を統一指標で測り、経営層向けにベンチマークしたいか？

Yes → ⇨ **PatentSight+**
（Patent Asset Indexによるグローバル市場価値評価）

Gemini Notebook

Final Verdict: 戦略的導入に向けた3つの原則



01

強力なオーケストレーターとして評価する

Biz Cruncherの真価はLLM単体ではない。「既存の日本向けIP分析資産 × 日本語運用 × Claude/Novaによる連携」の総合力である。



02

「材料」と「結論」の境界を守る

AIは極めて優秀なリサーチャーだが、法的判断者ではない。FTO判定や侵害判断は人間の領域として明確に切り離す。



03

TCOとセキュリティの透明性を確保する

導入前にGlobal+JP/US+AIの総コストを算定し、アプリケーション層のログ保持期間を契約レベルで確認する。

ツールが戦略を創るのではない。
人間が設計した戦略を、ツールが最速で具現化する。

Gemini Notebook